

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2017

2月

No.140



特集 P2・3

宍粟市社協の
経営改善に向けた
取り組み



ひ孫と
いっしょ

シリーズ139

一宮町 本谷

上田 鐵男さん(84歳)

由記子さん(80歳)

○翼くん(4歳) ○ひなたちゃん(3歳)

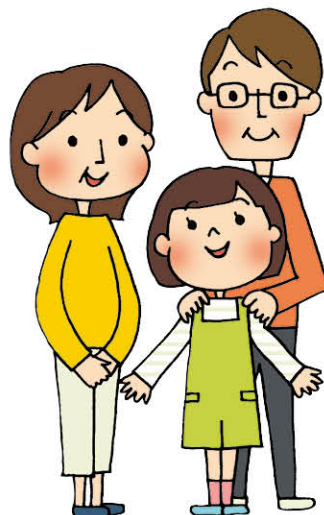
○瑞季ちゃん(2ヶ月)

松本 浩太さん・友香さん
■長男・長女・二女

穴栗市社協の 経営改善に向けた取り組み

穴栗市社会福祉協議会(以下、本会)は、平成26年度・27年度の2年連続で赤字決算を計上しました。介護報酬の引き下げに加え、在宅福祉サービス全般の利用者の伸び悩みにより介護保険事業が赤字経営に陥ったことが、地域支援事業、生活支援事業の運営にも大きな影響を与えました。

本会は、この状況を真摯に受け止め、地域福祉財源のあり方や介護保険事業および地域福祉事業の改善について検討するため、「経営検討委員会」を設置し検討を重ねてまいりました。このたび、「経営検討委員会」の報告として今後の方向性を示した「経営改善計画」が理事会で承認されました。



「経営検討委員会」には、社協役員、評議員以外に外部から参加いただきました

社協事業運営の 大きな転換点

本会の経営状況は、26年度決算において「サービス活動増減差額」が558万5千円の赤字に転落し、さらに27年度決算においては3525万9千円の赤字にまで膨れ上がり、本会設立以来2年連続の赤字を計上しま

した。

とくに、27年度は社協財政を支えていた介護保険事業が初めて赤字に転落する事態となりました。このことは、『社協の本来事業である法人運営、地域支援、生活支援の事業を介護保険事業の収益で支える』というこれまでの本会の財政の考え方が成り立たなくなり、事業運営が大きな転換点に立たされている状況を示しています。

社協事業の 整理統合も必要

この状況をふまえ、社協財政の改革に向けて、28年7月に「第5期経営検討委員会」を立ち上げ、のべ4回にわたり議論を重ねてまいりました。

委員会では、本会が置かれている現状を認識するとともに、今後の事業運営は、事業ごとの妥当性を適切に評価したうえで、必要に応じて整理統合を行うことも重要と考えました。



一日の訪問回数4回以上を目指します(訪問入浴)

そうした観点から、社協財政の改革の礎となる ①「介護保険事業等の生産性分析に基づく改革」(▽訪問介護事業の職員一人あたりの目標訪問回数80回。▽訪問入浴介護事業の一日あたり目標訪問回数4回以上。) ②「事業分析・評価シートに基づく改革」(▽日常生活自立支援事業は、安定して事業が継続できるように適正な利用料に改定し職員体制の充実をはかる。▽配食サービスは、地域の重要な社会資源

としての「ふれあい型給食サービス」が、安定して継続できるよう改善を図る。) ③「社協自主財源の改革」(▽社協一般会費は、目標加入率80%。▽その他、広報紙への有料広告、ホームページのバナー広告の募集。)等、今後の方向性を具体的に示しました。(※前述の(一)内は例示で、改革の一部です。)

また、事務局や事業所は、財政改善に向けて、今できる経費節減や改善策に順次取り組みました。

まず、▽当面の間、介護スタッフの増員を控え、サービスの利用状況に応じた職員配置に努めました。▽事業ごとに一年間の地域支援スタッフの投入コストを人日計算により洗い出し、不採算事業とその原因を特定しました。▽収支状況悪化による賞与支給率の調整は全職員の理解と協力により実施しました。

これらの取り組みは、すでに中間決算で黒字として効果を上げています。

◇経営改善の取り組みにあたっての提言◇

- ① 貴重な介護保険事業部門の分析結果を有効に活用し、問題点の改善対策を実践すること。また、営業体制を整備し、競合する他事業所に負けない利用者の確保策を推進すること。
- ② 事業の改廃にあたっては、関係諸団体に対し、独断的な考え方を押し付けるのではなく、誠意と理論をもって対応し理解を求める手順を怠らないこと。
- ③ 自主財源の確保にあたっては、改善対策に加え広告収入等の新たな分野の財源を発掘すること。
- ④ 生活支援事業の利用者に対する利用料については、事業の運営努力に取り組むことが第一ですが、改善が困難な場合、やむを得ず値上げをお願いする事態も避けられないが、誠意をもって理解を得ること。
- ⑤ すべての業務において“ムダ・ムリ・ムラ”をそぎ落とし、質を落とさず効果をあげる「効率改善」の仕組み導入と実践を検討すること。
- ⑥ 月次の正確な収支を明らかにし、経営状況を把握すること。

経営改善に取り組む姿勢と注意すべき事項

また、委員会から、協議の中で具体化されてきた経営改善に取り組む姿勢や注意すべき事項についての提言(左記)を受けました。今後の経営改善に活かしてまいります。

「経営改善に関する提言」から引用
(事務局長 可藤和成)

第5期経営検討委員(10名・敬称略)

委員長	丸山 喜一	(元ハマ農協組合長)
副委員長	安積 盛久	(社協副会長)
委員	平野 安雄	(宍粟市商工会事務局長)
	船曳 順市	(宍粟市老連会長)
	上木 靖彦	(社協評議員)
	宮内 よし子	(社協評議員)
	津村 裕二	(健康福祉部次長)
	野崎 悦雄	(経営開発センター)
	森本 都規夫	(社協会長)
	平岡 千恵子	(社協理事)

やさしさ

親子でいっしょに楽しんで

人形劇 ゆめ工房やまさき

1月29日(日)、宍粟市立図書館で「おたのしみにんぎょうげき」が行われました。

当日は、ボランティアグループ「人形劇 ゆめ工房やまさき」が、だるまちゃんとてんぐちゃんを上演し、親子など約50人が鑑賞しました。

ゆめ工房やまさきは、結成20年を迎え、現在7人のメンバーで活動しています。

年間約10公演を行い、まちの子育て応援団として、子どもに夢を与えるとともに地域との交流を続けています。

舞台幕や小道具は縫製ボランティアやリサイクルグループにご協力いただいたり、キリン財団の助成金を活用して新たに音響セットも購入され、さらに活動を活発にされています。

「今後も子どもたちの笑顔に元気をもらい、い



上演前には、リズム遊びで場を和ませ始まります。だるまちゃんとてんぐちゃんが登場すると子どもたちからは、歓声が…(宍粟市立図書館)

いろいろな方の協力を得ながら続けていきたいです」と代表の嶋津千里さん。

これからも小さな子どもや親子がいっしょに楽しめる機会を提供し、子どもたちに夢を届ける人形劇を続けてほしいと思います。

(山崎支部 山本めぐみ)

いのちのみや

子育ての大変さを実感

伊和高校育児体験

1月13日(金)、一宮保健福祉センターで、伊和高校3年生9人が「育児体験学習」を行いました。

この取組みは選択授業「子どもの発達と保育」の一環で行われており、子育て中の親子とふれあい、乳幼児期の子どもを

知るとともに、育児の悩みを理解することを目的としています。

当日は親子36人の参加があり、子どもたちは跳んだり走ったりと、お兄さんやお姉さんと思う存分遊びました。

また、小さい子を一生懸命あやし、オムツ交換に苦戦する生徒の姿も見られました。

生徒たちからは「子どもが何に興味があるのかを考えて接する機会になった」「母親に預けると



普段とは違った遊び相手に大喜びです(一宮保健福祉センター)

泣いている子がすぐ泣き止んだ。安心感があるんだと思う」「将来、保育の道に進んでお母さんたちの支えになりたい」といった感想を聞くことができました。

子育ての大変さを実感した伊和高校の生徒たち。このような経験を自分たちの将来に活かし、地域で活躍してほしいと思います。

(一宮支部 岡崎章訓)

は
が

地域の声を“聞く”協議の場に

波賀地域福祉推進委員会

1月26日（木）、メイプル福祉センターで波賀地域福祉推進委員会を開催しました。

地域福祉推進委員会は住民のみなさんの声を反映し、福祉活動を推進する協議の場として各支部で取り組んでいます。

今回は、3月に発行する波賀かわら版「ほっこり通信」の内容について、各自自治会の福祉活動や「ホット」なニュースを委員のみなさんが出し合い、紙面構成を考えました。

そして協議のもう一つのテーマ、「人口減少が著しい波賀北部域での福祉活動」について話し合う中で、この冬の大雪と北部域の現状について谷口賢二委員（戸倉自治会長）から話がありました。



「波賀はどことも人口は少ないけどふれあい喫茶の参加率は高い」との意見も（メイプル福祉センター）

助け合いができない現状も見えてきました。そして話し合いの中で、一度北部域を訪れ声を聞いてはどうかとの意見もあり、訪問する計画も出てきました。

（波賀支部 田中祥仁）

福祉連絡会の定着に向けて

岩野辺自治会

1月26日（木）岩野辺公民館で自治会役員や民生委員、女性会、消防団、喫茶ボランティア14人が集まり福祉連絡会が開催されました。

岩野辺自治会では、昨年から福祉連絡会の設置に向けた取り組みを進めています。6月の研修会をきっかけに、各種団体が協力し合う必要性を感じたことから福祉活動への協力者が徐々に増え、ふれあい喫茶や百歳体操の定着につながっています。

当日は、社協の生活支援コーディネーターとコミュニティワーカーが同席し、28年度の福祉活動を振り返り、地域に必要な見守りや支え合い活動について話し合いました。

「話し合いの場があるのは本当にいいことです。いろんな機会が集う場が増え、みんなで地域づくりをしていきたいと思います」と民生委員児童委員



「今日の話を、みんなに聞いてもらいたいなあ」（岩野辺公民館）

の森脇常公さんは話されます。29年度は、福祉連絡会の定着に向けて、見守りや支え合い活動のネットワークをさらに強くし、このような取り組みが全住民に広がるよう関わっていきます。

（千種支部 横山洋子）

ち
くさ

ふれあい郵便「あいめ〜る」 おたより ボランティア 募集!



現在利用者は32人。この日も民生委員さんが訪問

波賀支部では町内の75歳以上の一人暮らしで希望される方へ、お手紙を届ける「ふれあい郵便「あいめ〜る」」を行っています。

ボランティアのみなさんにお便りを書いていただき、民生委員児童委員の皆さんの協力を得てお届けしています。

今回、このお便りを書いていただく「おたよりボランティア」を募集します。

ご協力いただける方は、波賀支部(75-3631)へご連絡ください。

支部や地区間をつなぐ 配送ボランティア



このたび、本会の配食サービスで運搬にご協力いただけるボランティアを募集します。



一宮からお弁当が到着し波賀町内の利用者さんのもとへ(H29.1.31 メイプル福祉センター)

活動日・時間・場所

- ①火曜日 午前10時30分～ 一宮⇒波賀間
- ②木曜日 午後2時頃～ 山崎(土万ふれあいの館)⇒千種間

活動回数 月1回、1時間程度
申込み時にご相談ください。

申込み・問合せ 各支部へ



あの日から22年… 震災を風化させず伝えていく

1月17日(火)、阪神淡路大震災を風化させず次の世代へ語り継ぐため、神戸市、宍粟市で追悼行事が行われ、多くの方々に参加・協力いただきました。

神戸市で開催された「1.17ひょうごメモリアルウォーク2017」に宍粟から13人が参加し、それぞれの想いを胸に神戸の街を5キロ歩きました。また宍粟市では、宍粟市ボランティア連絡会が中心となり、市社協各支部で追悼しました。神戸へのメッセージが書かれた竹筒に灯りをともし、日頃からのつながりが大切であると参加者同士で語り合いました。



三宮東遊園地

神戸 1.17メモリアルウォークへ参加



宍粟防災センター

宍粟 4会場で追悼

《参加者の声》

- ・22年という時が流れ、少しずつ忘れていくことを考える機会になりました。宍粟にも山崎断層があるので、日頃からの備えとご近所同士のつながりを大切にしたいと思います。
- ・当時の出来事を改めて忘れてはいけな、と思いました。震災を知らない子どもたちに震災の教訓や助けあいの心を伝えていくことこそ、大切だと思います。
- ・メモリアルウォークに参加しました。宍粟から届けた竹筒がたくさんありました。テレビからは伝わらない心に響くものがあり胸が熱くなりました。